

平成24年度前期 授業改善アンケート 質問項目

		no.	設 問	① ←→ ⑤
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ~ 十分確認した
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ~ 取り組んだ
		3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ~ 良好
		4	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか	しなかった ~ 十分した
授 業 内 容 教 え 方 等	内 容	5	授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ~ シラバスに沿っていた
		6	授業内容を理解できましたか	理解できなかった ~ 十分理解できた
	教 え 方 等	7	説明が明快でしたか	分かりにくい ~ 明快
		8	話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ~ 聞き取れた
		9	板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
		10	配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ~ 良好	
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ~ 揃っている	

1. 概評

すべての項目について、全学平均を上回っており、また no.11 以外(学習環境)には、「<3」の科目はひとつもなく、良好と言える。

特に no.1(シラバスの内容確認)は3期続けて全学平均を0.3上回っている。no.4(授業外の自主的学習)の「4≦」の科目数も全体の74%を占めているが、これは震災対応で課題の多かった昨年度同期と同数値である。シラバスの確認と、学生の自主学習の実績が授業への積極的参加につながり、授業に対する満足度と相関しているものと考えられる。

学科内で平均を下回る科目の中には、低学年向けのものが散見されるので、学生の質の変化などにも目配りし、対策を講じる必要がある。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	4.2	0	0	0	0	22	103	<p>[学生]</p> <p>平均値は前年度同期とほぼ同数値、もしくは向上しており、学生の授業に対する姿勢が高いことがうかがえる。概評でも触れたが、授業の満足度の高さを支えている、大きな要因のひとつと考えられる。</p> <p>no.4は平均値では昨年度同期より-0.1であったが、昨年度後期までは見られた「<3」の科目がなくなり、底上げがなされたことがうかがえる。</p> <p>no.1(シラバス確認)は、低学年の対象にやや数値の低い科目が見られるので、授業内での呼びかけを徹底していく。</p>
2	4.2	0	0	0	0	29	96	
3	4.5	0	0	0	0	6	119	
4	4.1	0	0	0	7	25	93	
5	4.2	0	0	0	1	21	103	<p>[授業[内容]]</p> <p>no.5(シラバスに沿った授業)、no.6(授業内容の理解)いずれも昨年度同期より向上している。no.5については82%(昨年同期は74%)、no.6については69.6%(同66.4%)の科目が「4≦」の評価を得ている。引き続き向上を期したい。</p> <p>低学年対象の受講人数の多い科目にやや低い数値が見られるが、no.1と相関するので、善処をはかる。</p>
6	4.2	0	0	0	3	35	87	
7	4.3	0	0	0	5	24	96	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>no.9(板書ほか)は、昨年度同期と同数値であったが、その他3項目についてはすべて向上が見られた。特に「4≦」の評価を得た科目の割合が増え、</p> <p>no.7(説明の明快さ) 76%(昨年度比 +5%)</p> <p>no.8(話の聞き取りやすさ) 84.8%(同 +7.8%)</p> <p>no.9(板書ほか) 70%(同 10%)</p> <p>no.10(配付資料・教材) 81.6%(同 +3.6%)</p> <p>である。</p> <p>4項目の中では no.9に改善の余地が認められるが、これについても視覚化の進んだ高校の授業とのギャップからか、低学年対象の科目にやや低い数値が散見される。善処をはかる。</p>
8	4.4	0	0	0	5	14	106	
9	4.1	0	0	0	8	27	88	
10	4.3	0	0	0	1	20	102	
11	4.3	0	0	1	1	14	109	<p>[環境・設備等]</p> <p>いずれも昨年度同期と同数値である。</p> <p>no.11(学習環境)は受講人数の多い科目等に低い数値が見られる。隔年開講による人数集中、節電の影響も考えられる。</p> <p>no.12(参考資料)は低学年の実習・演習科目にやや数値の低いものが見られる。資料活用の仕方の指導を徹底していく。</p>
12	4.0	0	0	0	6	50	69	

3. 今後の方針

すべての項目で学科平均が4を超えているので、これ以上の数値の向上は難しいと思われるが、高学年と低学年の差が見られる等、課題が認められるので、引き続き工夫をはかっていく。

また、昨年度同様、シラバスの確認と、授業外の学習、内容理解の相乗効果が明らかになったので、今後もシラバスの確認については徹底していきたい。と同時に、シラバスの準備学習の具体的記載を、いま一度各教員が確認する必要もあると考えられる。

本学科は全体的に数値が高いが、授業設定レベルの検証も引き続き求められる。学生の質の変化などに留意しつつ、授業公開に積極的に参加する等、教員同士が情報交換することが望ましい。

1. 概評

学科平均が全体平均より上回っているものが12項目中5項目(No.4,5,6,9,12)、同じ数値が5項目(No.2,7,8,10,11)、そして下回っているものが残り2項目(No.1,3)であった。全体的に見ると今学期の評価は概ね良好と言えるかと思われるが、引き続き改善に努める必要のある項目も認められるので、検討していきたい。

【学生】

4項目中1項目が全体平均を上回っており、1項目が同じ数値で、残り2項目(No.1,3)が下回っている結果であった。ここ数回と比べると低い結果が続いている「学生の出席に関する項目(No.3)」の改善を図りたい。

【授業【内容】】

2項目とも、全体平均より上回っている。ここ数回概ね良好の評価を得ることができており、学生のニーズや期待値とうまく合っているのではないかと考えられる。

【授業【教え方等】】

4項目中1項目(No.9)が全体平均を上回っており、残り3項目は平均と同じ数値であった。全て4ポイントは超えており比較的良好な評価を得ている。今後も更に効果的な授業運営を目指していきたい。

【環境・整備等】

2項目のうち、1項目は全体平均を上回り、もう1項目は全体平均と同じ数値と言うことで、概ね良好と言える。ここ数回ポイントが低かった「図書館利用」も、わずかではあるがポイントが伸びてきている。今後も更に教員・学生への連絡・指導等を進めていきたい。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.8	0	0	4	27	85	60	【学生】 ・No.1は、全体平均とは0.1ポイント下がっているが、前年度と比較すると同じ結果であった。先生方に授業内での「シラバス確認」を更に行なって頂ける様に依頼していきたい。 ・No.2は、全体平均と同じポイントであるが、昨年度よりは0.1ポイント上昇している。学生の積極性が出て来ているのではと思われる。 ・No.3は、全体平均と比べても、昨年度と比較しても0.1ポイント下がっている。今後更にこの原因が何かを考えていきたい。 ・No.4は、全体平均より0.1ポイント上回っているが、昨年度よりは0.1ポイント下がっている。No.2の設問と合わせて、学生の自主的な学習を促す方法を考えていきたい。
2	4.1	0	0	0	4	43	129	
3	4.3	0	0	0	1	21	154	
4	4.1	0	0	0	5	39	132	
5	4.1	0	0	0	7	44	125	【授業【内容】】 ・No.5とNo.6は、全体平均よりも、また前年度よりも0.1ポイント上昇している。概ね良好の結果と言える。この点は大変評価できる結果である。 ・但し、No.6(授業の理解)の回答に分散傾向が見られるので、この点の改善を図ってきたい。
6	4.1	0	0	4	11	29	132	
7	4.1	0	0	6	11	28	131	【授業【教え方等】】 ・これら4つの項目は、全体平均と同じまたは上回っている結果である。昨年度の結果と比べても、No.7のみ同じポイントで、No.8,9,10は0.1ポイント伸びている。 ・上記の結果を考慮すると、「教え方」の項目に関しては、概ね良い結果と言える。但し、これら4つの設問に対する回答も、分散傾向が見られるので、より高い評価が数多く得られるように、大学並びに学科のFD活動を通して研修等に取り組んでいきたい。
8	4.2	0	0	3	10	29	134	
9	4.1	0	0	2	15	35	123	
10	4.1	0	0	0	13	34	129	
11	4.2	0	0	0	4	45	127	【環境・設備等】 ・No.11は、全体平均とは同じであるが、昨年度よりは0.1ポイント上昇している。 ・No.12は、全体平均並びに昨年度と比べて0.1ポイント上昇している。 ・上記の結果を考慮すると、概ね良好と判断するが、今後も先生方からの協力を得て、継続的に環境向上に取り組んでいくことが重要と考えている。科会での依頼・告知等が続けていきたい。
12	3.9	0	0	0	18	90	68	

3. 今後の方針

- 学科平均を前年度の結果と比較すると、ポイントが上昇した項目が 12 項目中 8 項目あり、ポイントが同じ項目が 2 項目、残り 2 項目 (No. 3, 4) はポイントが下回ったと言う結果であった。ポイントの下がった項目が【学生】に関する項目であることが、少々気になっている。今後の改善を図るためにも、現状把握に取り組んでいきたい。
- 全体的に上昇傾向と言えるかと思われるが、各項目の伸びはそれ程大きくない。それぞれの項目を再度確認し、大学主催の授業公開、FD 講演会、FD サロン、そして学科実施の研究会等を活用し、一層の改善を目指していきたい。上記の活動への先生方の積極的な参加を促していきたい。

1. 概評

前期開設科目のうち、87科目(109授業)でアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目がなく、全体平均と同じである項目が7(No.1、No.3、No.5、No.6、No.7、No.9、No.10)、0.1ポイント下回る項目が5(No.2、No.4、No.8、No.11、No.12)であった。今回はじめて全体平均を上回る項目がなく、また、0.1ポイントとはいえ、下回る項目が例年よりも多かったことが特徴である。前年度前期と比較すると、No.3とNo.4の項目が0.1ポイント下がっただけであった。また、大人数の授業でポイントが低い傾向がみられ、授業外での学習の取り組みが弱い。これらの点を改善していきたい。(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	3	68	41	<p>[学生] 本学科の学生は、No.3にみられるように、出席状況はよい。しかし、No.4にみられるように授業外での学習が弱い。No.4は前年の前期・後期とポイントは同じであり、改善の必要がある。 この対策として、1年生必修の歴史文化基礎で全員に課題をだし、自主的な研究をするように指導していることを継続するとともに、2年次・3年次・4年次の必修授業や他の授業でも課題をだすように工夫していきたい。</p>
2	4.0	0	0	0	3	39	70	
3	4.4	0	0	0	0	0	112	
4	3.9	0	0	0	12	42	58	
5	4.0	0	0	1	2	30	79	<p>[授業[内容]] 全体平均と同じである。前年度前期・後期とも同じポイントである。授業内容は問題ないとする。ただし、No.5で1科目が低かったことに関しては、演習であり、シラバス通りには進まなかった可能性もあり、検討したい。</p>
6	4.0	0	0	0	12	31	69	
7	4.1	0	0	0	6	28	78	<p>[授業[教え方等]] 全体平均とほとんどかわらず、また前年度前期と同じポイントであった。前年度後期と比べると、No.8、No.9、No.10でそれぞれ0.1ポイント下げた。ただし、2 ≤ 3に入る科目がなくなったことが評価できる。</p>
8	4.1	0	0	0	5	19	88	
9	4.0	0	0	0	8	43	61	
10	4.1	0	0	0	4	35	73	
11	4.1	0	0	0	6	24	82	<p>[環境・設備等] 全体平均よりもそれぞれ0.1ポイント下回った。また、学科としては前年度前期・後期と同じポイントであった。 このことに関しては、大人数の授業で学習環境に対する評価が低いことが指摘できる。図書に関しては、積極的に図書館に購入希望をだすように指導したい。</p>
12	3.7	0	0	2	14	80	16	

3. 今後の方針

本学科の学生は授業をまじめに取り組むが、授業外の学習について弱い傾向がみられる。そのため、下記のような、前年度からの指導を継続する。また、100名以上受講する科目の評価が低い傾向にあるため、公開授業を通して、授業改善へとつなげていきたい。

- ①1年生の必修授業(『歴文基礎』)で取り組むそれぞれのテーマについて、自分で野外調査し、その調べたことを整理し、授業で報告する、というスタイルを徹底し、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養っていく。
- ②2年生以上では、必修授業での課題の徹底、ゼミを通じた夏休みの研修旅行、昭和女子大学文化史学会への参加などから、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養いたい。
- ③100人以上の大人数の授業が5科目あるが、これらの科目すべてが全設問中、全体平均よりも低く、改善の必要がある。そのため、公開授業を通して、受講生の多い授業の工夫をみなで改善していきたい。

1. 概評

学科平均は昨年度の結果と同じ4.0ポイントで変化はみられなかった。そして、大学全体平均を0.1ポイント下回った結果となったのは非常に残念である。ポイントをあげたのは、出席状況の評価である。昨年度より、0.1ポイントあがったが、全体平均は下回ったのは残念である。原因として考えられるのは、「シラバスの確認」「授業に対する取り組み」「出席状況」でポイントを下げていることである。その他は、全体平均と同じであることから、学科としての工夫が必要であると考えられる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	0	8	46	75	44	[学生] 語学中心のカリキュラムであることから、授業外の学習がかなり求められている。それにもかかわらず、積極的な姿勢が見られないのは非常に問題であると認識している。学生自らが能動的な学習態度を持つことができるように、学科全体で支援が必要であるとする。また、講義科目では授業外で自主的な学習をしない傾向にあるので、課題等をだして自主的な学習を促していきたい。
2	4.0	0	0	0	10	59	104	
3	4.3	0	0	0	1	17	155	
4	4.0	0	0	1	20	52	100	
5	4.0	0	0	1	17	66	89	[授業[内容]] 前セメスターから変化がない。語学クラスは能力別編成になっており、テキストも各クラスで異なる。シラバスの確認は予習・復習など日常の学習に不可欠である。オリエンテーションや基礎ゼミなどで学生の意識向上を目指す。また、授業内容を理解できない学生は、基礎知識に欠ける傾向がある。学科内での初年次教育の充実を図る。
6	4.0	0	0	4	13	49	107	
7	4.1	0	0	6	9	40	118	[授業[教え方等]] 「板書、OHP、Power Point が授業の理解に役立った」が全学平均よりもポイントが高かった。これは、各教員が授業改善に努力をしてきた成果であると考えられる。ただし、Power Point は、学生たちが一時的に理解した幻想をいただくこともあるため、自らが聞き取り、考え、ノートにまとめていくようにする作業を怠らないように、学科として指導する方針である。
8	4.2	0	0	3	10	33	127	
9	4.0	0	0	4	8	64	97	
10	4.1	0	1	2	9	48	113	
11	4.2	0	0	1	10	34	128	[環境・設備等] 学習環境については、例年と同じ評価である。大人数の講義科目の評価が低い傾向にある。学生の理解度との関連をみながら、受講者数に見合う環境づくりが必要である。専門書の充実はまだゼミがスタートしたばかりなので、教員から専門教育に必須となる図書を推薦してもらうようにはたらきかけていきたい。
12	3.8	0	0	0	17	116	40	

3. 今後の方針

①2年生はアジア言語の学生が週8コマの語学学習を行う。学習習慣のついていない学生が脱落していく傾向にある。語学教員からの情報を迅速に吸い上げて、クラスアドバイザーなどが支援できる体制を整えることが急務であると感じた。また、1年生は基礎ゼミでのクラスアドバイザーによる親身な指導で、学生の様子を学科全体で共有できていることがわかった。今後は学生の学習意欲を高めることができるように、学科全体で取り組むことが必要であろう。

②FD を実施する目的と意義を事前に学生に説明する必要があると感じ、4月のオリエンテーションで説明したが、1年生はほとんど記憶にとどめていなかったようである。人気投票と勘違いするなど、学生の安易な回答を引き出さないために、どのようにしたらいいのか学科で考えていきたい。当面は、基礎ゼミ教員から試験期間直前に説明をしてもらうことを計画している。

1.概評

いずれの設問においても、大学全体の平均と比較するとほぼ同じ評価点であるが、本学科の前年度同学期の評価点と比較すると12項目中、8項目が向上、4項目は同じであり、また前学期と比較すると12項目中、11項目が向上、1項目が同じであった。学生の学習態度、教員の授業運営双方に改善を認めることができた。引き続き、学生への働きかけを意識しつつ、授業の改善に取り組んでいきたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	3	25	28	[学生] どの設問も前期の評価点を上回った。No.1(シラバスの確認)についても、学生の意識が高まったことがうかがえる。今後も学生が授業内容を事前に確認し主体的に履修に臨むことを促していきたい。
2	4.0	0	0	0	2	18	36	
3	4.5	0	0	0	0	0	56	
4	4.0	0	0	1	3	18	34	
5	4.0	0	0	0	1	20	35	[授業[内容]] 2設問とも前期の評価点を上回った。今後もシラバスの内容について学生と共有した上で、学生の理解を促す授業運営を心掛けていきたい。
6	3.9	0	0	0	8	20	28	
7	4.0	0	0	1	4	17	34	[授業[教え方等]] 4設問中3問が前期の評価点を上回り、No.10(配布資料、教材)のみ同点であった。授業のプレゼンテーションに対する各教員の創意工夫の反映と考えられる。今後も引き続き授業方法の改善に向けて努力を続けていきたい。
8	4.1	0	0	1	2	16	37	
9	3.9	0	0	0	5	19	32	
10	4.0	0	0	0	1	19	36	
11	4.0	0	0	1	3	13	39	[環境・設備等] 2設問とも前期の評価点を上回った。No.12(図書館の蔵書)は、12設問中一番低い値であった。今後も教員が参考書籍の購入を積極的に図るとともに、授業内でも学生に広報することで、図書館の活用を促していきたい。
12	3.7	0	0	0	6	44	6	

3. 今後の方針

- 大半が 3.5 点以上であり、概ね良好といえる。授業内容や教え方などに関しては、授業公開などを通して教員間の情報交換を密にし、一層授業の質の向上を目指していきたい。
- 図書館の蔵書に関しては、各教員が担当授業科目における参考書籍の購入依頼を積極的に行うとともに、学生への指導、広報を行い、学生が図書館をより活用するように促していきたい。

1. 概評

学科平均の評価については、前年度とほぼ同様であり大きな変化は見られないが、個別詳細に見ると本学科が力を入れてきた少人数制の演習系の授業の評価が高まってきており、科目間の評価の高低も解消されてきている（「基礎演習」「専門演習」「相談援助演習」等）。学期開始前、授業期間中、最終授業終了後などに授業担当者会議を開催し、授業担当者間の情報共有をはかったことによる効果が出始めたのではないと思われる。講義による授業については、FD サロンにほぼ全員参加するなどして、他学科の教員との情報交換を進めているところである。来期以降に成果が上がるよう期待したいところである。

設問9(板書、パワーポイントの効果的活用)については、教員間のばらつきが大きく、大学全体の評価(4.0)と比べても0.2ポイント低い結果となった。これについては、授業改善アンケート実施の際に、この評価項目になじまない授業においても一様に評価を求めたことによるものと思われる。アンケート実施前に各授業担当者に周知したい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	0	0	26	63	17	<p>[学生]</p> <p>問1のシラバスの確認については、前回まで資格関連科目における評価が低い傾向にあったため、教務ガイダンスや科会等で周知したところ、常勤が担当する資格関連科目についての評価は改善が見られた。今後も学生については履修登録前の事前確認、教員については初回の授業における確認を促したい。</p> <p>問2(積極性)、問3(出席状況)については概ね良好である。</p> <p>問4の授業外の学習については、前年度に比べ「基礎演習」「専門演習」「相談援助演習・同実習指導」など、学生の主体性を前提とした少人数のゼミにおいて改善が進んでいる。その一方で、学部共通科目など多人数の授業や、実習の機器・機材がないと自己学習が不可能な授業については、授業外の自己学習が進んでいない状況も見受けられる。個々の教員の工夫とともに、全学的なFDの取り組みへの参加を促すことにより改善を進めていきたい。</p>
2	4.0	0	0	0	7	47	52	
3	4.4	0	0	0	0	4	102	
4	4.0	0	0	1	11	31	63	
5	3.9	0	0	0	6	57	43	<p>[授業[内容]]</p> <p>問5(シラバスと授業の一致)、問6(授業内容の理解)とも、前年度と同様の結果であった。個別にみると3.0ポイント以下の評価の科目はなくなり、3.5以上の所に分布している点は評価できる。授業内容の理解の評価が低い科目を見ると、設問7から10の評価も低い傾向がある。これについては、担当者に個別に改善を促す必要があろう。</p>
6	3.9	0	0	0	15	35	56	
7	4.0	0	0	1	11	26	68	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>問7(説明の明快性)、問8(話の聞き取りやすさ)、問9(板書、パワーポイントの効果的活用)、問10(配布物)について、個別にみると、これらの評価が低い科目について問6(授業内容の理解)の評価も低くなる傾向が見られた。</p> <p>なお、前回の改善報告書において国家試験対策講座の改善が必要であるとの指摘をしたが、これについては問7(説明の明快性)が4.6と向上したが、問10(配布物)が3.0と評価を下げている。配布物はない授業であるにもかかわらず、評価項目に残っていたためであると思われるので、次回以降の評価の際に注意したい。</p>
8	4.1	0	0	2	8	27	69	
9	3.8	0	0	5	12	40	47	
10	4.0	0	0	0	14	37	55	
11	4.0	0	0	2	9	20	75	<p>[環境・設備等]</p> <p>問11(学習環境)、問12(図書館の充実)について、どちらも前回より0.1ポイント評価が下がっている。問11については、3.0未満の評価の科目が2つあったことによると思われるが、適切な教室確保は個々の担当者の努力に帰すことができない部分があるので、学科として対応を検討したい。問12については非常勤の先生にもご協力を仰ぎながら整備に努めていきたい。</p>
12	3.7	0	0	0	15	70	21	

3. 今後の方針

(1) 平成 23 年度に掲げた3つの方針(①UPSHOWA の活用、②教務ガイダンスの工夫、③資格科目またはコース内専門科目担当者間の緊密な連携)のうち、③についてより強化していく。

具体的には、学科全体の立食形式による非常勤懇談科会を、コースごとあるいは資格類型による懇談会とし、教授内容・方法について協議する場とする。

(2) 教務部委員を中心として、各コース主任、実習室長の協力のもと、科内の FD 推進をはかる。

1. 概評(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

学生からは概ね高い評価を得ている。しかし、必修科目などで授業への主体的な取り組みに欠ける姿勢がうかがわれることから、新カリキュラム導入に伴い、学科全体での議論を行っていく予定である。シラバスの充実化によって、事前に教員が学生に求める方向性を知ることができるようになり、授業内容やレベルを認識したうえで履修登録を行うケースが増えているため、授業外学習についての評価が高くなっている。他方で、シラバスと実際の違いを学生から指摘されるケースも発生した。学科として細心の注意を払っていききたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	4	19	80	73	[学生] 必修科目ではやはりシラバス確認についての数字は低くなってしまおうである。しかし近年のシラバスの充実化の努力が少しずつ数値の向上という形で表れてきている。他方で、シラバスと実際の違いを学生から指摘されるケースも発生した。 授業外の学習への取り組みは全体としては数値が向上しているが、各科目に等しくあてはまっているのではなく、若干の差があるようである。
2	4.0	0	0	0	7	69	100	
3	4.4	0	0	0	0	5	171	
4	4.1	0	0	2	7	53	114	
5	4.1	0	0	0	2	60	114	[授業[内容]] 必ずしも関心と直接結び付いているわけではない、必修科目での授業内容理解度がやや低いように見受けられる。 シラバスの充実化が問 5「授業がシラバスに沿っている」への評価にも結び付いてきている。
6	4.0	0	0	2	15	57	102	
7	4.1	0	0	1	13	39	123	[授業[教え方等]] 授業の進め方については概ね一定程度の評価を受けている。ただし、問 7「説明が明快である」評価が高いのに、問 6「授業内容を理解できる」という評価が低い授業もある。 問 9「板書等」に関しては、全体的な高評価は得ているものの、自由回答への記述をみると、まだ各教員に改善の余地があるように見受けられる。
8	4.2	0	0	2	8	29	137	
9	4.0	0	0	0	19	60	94	
10	4.1	0	0	0	3	52	121	
11	4.2	0	0	0	5	35	136	[環境・設備等] 学習環境は概ね高い評価を得ているが、社会調査士A科目では、150人超の規模に多く批判が寄せられた。人間社会学部全体で、社会調査士科目の位置づけを検討すべきと考える。 参考図書については、依然として評価が低い。図書購入の在り方を、他大学を参考にして図書館と根本的に協議する時期に来ている。
12	3.8	0	0	0	10	120	46	

3. 今後の方針

必修科目での主体的な取り組みや授業内容の理解にやや低い評価が見られている。これは 1・2 年生からの評価と受け止められる。H25年度から新学部設立に伴い新カリキュラムへ移行するに当たり、改めてカリキュラムについて、学科全体で議論をしていく予定である。

授業外での取り組みに関する数値が少しずつ上昇してきている。詳細な分析が行えたわけではないが、この傾向は必ずしも全ての科目に均等にあてはまるわけではなく、いわゆる「厳しい科目」と「単位の取りやすい科目」として分化が起こり始めているように見受けられる。この傾向が履修者数にまで現れてくるようになると好ましくないので、単位の実質化は足並みをそろえて実施していくことが肝要であろう。

1. 概評

全体のポイントに大きな変動はなく、高水準を維持している。

特に、将来に向けた、専門科目への意識が高い。学生の意識、努力を高く評価し、今後もこの状態を維持すべき指導を継続したい。

前回に比べ、一部の項目に極端に低いポイントが表われていることもなく、改善が僅かに進んだものと見られる。

参考図書については、なお、改善につとめ、充実させていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	13	37	65	<p>[学生]</p> <p>「あなたの出席状況」については、4.6台と高水準を維持している。また、授業前のシラバスの確認については、例年通りの高ポイントを維持しているが、他の項目に比較して、ややポイントが低い。学生の意識、意欲の改善の可能性があると思われる。</p> <p>「教室では授業に積極的に取り組みましたか」については、全ての授業において、高得点を維持している。今後も学生の意識を保てるようにしたい。</p> <p>「授業外の自主的な学習」については、前回よりほぼポイントをあげた。授業外の課題については、教員によって差があるが、自主学習にとりくむための、教師による証左が必要と思われる。</p>
2	4.3	0	0	0	1	13	101	
3	4.6	0	0	0	0	0	115	
4	4.3	0	0	1	0	20	94	
5	4.2	0	0	0	4	29	82	<p>[授業[内容]]</p> <p>シラバスと授業内容の関連については、高水準を維持しており、歓迎すべき点である</p> <p>授業担当者の意識として、シラバスと現在の学生の状況を考慮にいれ、一層、高次の授業改善が望まれる。</p>
6	4.2	0	0	0	3	23	89	
7	4.2	0	0	2	5	17	91	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>説明の明快さについては、担当の教員によって差があるのは気になるところである。今後、対応策を検討したい。</p> <p>専門以外の科目に対して、「難しい」という意識があるようである。そのことによって、モチベーションが下がらないように、対応、改善を進めたい。</p>
8	4.2	0	0	1	6	25	83	
9	4.1	0	0	2	6	26	80	
10	4.2	0	0	1	2	23	89	
11	4.2	0	0	0	5	25	85	<p>[環境・設備等]</p> <p>受講者と教室のスペースの問題はまだ完全に解消されていないが、前回よりポイントがあがり、改善の兆しが見えてきたようである。</p> <p>参考図書に関しては、科目によって差がある。保育関係の図書を充実させたい。</p>
12	4.0	0	0	0	6	51	58	

3. 今後の方針

今回の授業評価においても、おおむね、良好な水準を保っている。

前回に比べて、横ばいのポイントがあり、項目を精査して、再検討をすすめていきたい。

施設面においては、教室の広さと受講者の人数との関係がやや改善された。今後も改善につとめたい。

学科の特性として、「教員」という明確の目標をもって、授業に臨む学生が多いと同時に、一般企業への志向も強く、学科としての課題である。

今後も、個々の学生に応じたきめ細やかなケアにつとめていきたい。

1. 概評

全体と学科平均の比較では、問い1,4,5が同点、問い3が-0.2、残りの問いが-0.1という結果であった。昨年度前期はすべての項目において学科が全体を下回る結果であったので、若干上昇したと思われる。差が大きかった問い3(出席状況)は、H22から見ると一度下がったスコアが本年度前期に向けて改善されている項目である。他学科のスコアがさらに良いということであるので、さらに積極的な出席を促したい。本学科で一番低いスコアは問い12である。参考図書の整備については引き続き各授業での図書館利用アドバイス等を行っていききたい。一方問い7(説明が明快であったか)などH22から見ると0.2ポイントほどスコアが上がっている項目もある。本学科はデザイン系の科目から理数系の科目まで幅広く学び、さらに実習系の科目が必須となっており、これらの科目間の評価差は大きい。評価の高い科目の授業運営上の工夫なども参考にしていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいっただとところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	1	0	7	114	60	[学生] H22から全体としては徐々にスコアは上昇している。H23に一度スコアが下がった問い2(授業への積極的な取り組み)と問い3(出席状況)も改善した。 学生の授業態度に関する設問の中で、3点台であるのは問い1(シラバスの確認)であるので、日ごろから授業内でシラバスについても触れるなどしていきたい。
2	4.0	0	0	0	2	81	99	
3	4.2	0	0	0	3	41	138	
4	4.0	0	0	0	8	60	114	
5	4.0	0	0	0	16	72	94	[授業[内容]] 授業内容に関する2つの設問に関しては、問い5は大学全体と同じ、問い6は0.1ポイント低いスコアであった。ではあったが、H22から見るとスコアは上昇しており、特に問い6はH23で一度下がったところを回復している。
6	3.9	0	1	3	16	74	88	
7	4.0	0	0	4	9	81	88	[授業[教え方等]] 教え方に関する4つの設問に関しても、H22から少しずつスコアが上昇している。このセクションはH22後期からH23前期にかけて少し停滞していた。 スコアが4以上の科目が少しずつ増えている一方、3に満たなかった科目が数科目あった。この中には自然科学系、哲学系、実習系が含まれており、授業内容の理解度が低いことが、他の項目にも影響していると考えられる。 視聴覚機器の有効利用やUPSHOWAの利用など、授業運営に工夫を加えていきたい。
8	4.1	0	0	2	9	70	101	
9	3.9	0	0	3	13	97	69	
10	3.9	0	0	3	20	80	79	
11	4.1	0	0	0	10	65	107	[環境・設備等] 学習環境に関する設問のうち問い11では、H23に0.1ポイント落ちていたものを元のポイントに戻した。また、最もスコアの低い問い12(参考図書の整備)については、少しずつスコアを上げてきているので、引き続き各授業での図書館利用アドバイス等を行っていききたい。
12	3.7	0	0	0	42	112	28	

3. 今後の方針

学科の平均を H22 から見て行くと、少しずつ評価が上がっているあるいは横ばいであった。前年度に一度わずかに評価が下がったものも、もとのスコアに戻ってきている。

シラバスに関する問い 1 および 5 については、今後さらにシラバスの充実と授業内での有効利用を図っていききたい。

図書館の利用、関連図書の実態については、今後とも参考図書の整備をつづけ、引き続き各授業での図書館利用アドバイス等を行っていききたい。各教員による図書の推薦も積極的に行いたい。

1. 概評

本学科の学生は初めて1-4年生が定員一杯の状態で行った。今回の結果が、今後の基準になると考えられる。今回から4年生の選択科目が教科目開講されたが、全体として見ると科目のほとんどが資格必須もしくは領域必須になっており、学生による科目選択の余地はそれほど大きいとはいえない。これに関しては、昨年度同様授業評価にも反映されたものと考えられる。

《学生》シラバスの確認は、前年度に比べて改善したといって差し支えないと考えられるが、未だ十分とはいえない。これは多くの授業が資格・領域必須であるため選択の余地がそれほど大きくないことに起因すると考えられる。そのほかの項目についても顕著な変化はないように見受けられる。

《授業》全体的に平均的な評価であったが、今年度から一部の科目で進度別クラス分け授業を開始した事により改善傾向は見られるが、全体に対する割合は低いので、学科平均の数値には大きな影響を及ぼすには至らなかったようである。

《環境設備等》教室など学習環境の評価は平均的であるが、参考書についての評価は依然高くはない評価であったため、一層の充実が望まれる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	7	47	38	[学生] シラバスの確認についての評価に改善が認められるが、まだ高いとは言えないレベルである。これはほとんどの授業が資格あるいは領域必須でありクラス分けした時間割によって履修を行っているため、確認の必要性を認識しにくいとされる。授業の出席についての評価は依然高く、栄養士養成施設に学ぶものとしての自覚の表れ並びに、各教員の指導の賜物と思われる。実験実習科目での評価が高く、講義科目での評価が低い傾向にあるのは例年通りであるが、継続的に授業内でのレポート作成時における関連情報検索などに対する考え方や方法についての指導も更に進めることが肝要と考えられる。
2	4.1	0	0	0	3	20	69	
3	4.4	0	0	0	0	2	90	
4	4.0	0	0	0	17	29	46	
5	4.0	0	0	0	2	48	42	[授業[内容]] 全体的に平均的な評価であった。科目選択の余地が少ない訳であるが、本学科の目的は明確化されているため授業への取り組みの意識・姿勢が保たれていると考えられる。今後はさらに授業への集中、授業前後の取り組みにも力を入れるよう折にふれた指導を徹底させていきたい。
6	4.0	0	0	0	8	28	56	[授業[教え方等]] 全体的に平均的な評価であった。授業内容の評価について、基礎科目において低評価となる傾向が有ったが、今年度から進度別クラス分けの授業実施していることから、来年度以降も継続的に観察し、適宜改善を実施していきたい。
7	4.1	0	0	2	8	23	59	
8	4.1	0	0	0	8	22	62	
9	4.0	0	0	0	8	30	54	
10	4.1	0	0	0	4	38	50	[環境・設備等] 教室設備についての評価は平均的であった。一部の授業で低い評価が認められるが、学生数の多い科目で十分ではない環境で実施せざるを得ない状況があったと考えられる。参考資料については依然十分とはいえない状況であるので更なる充実が望まれる。
11	4.2	0	0	0	0	18	74	
12	3.8	0	0	0	7	62	23	

3. 今後の方針

本学科においては、資格関連科目が大部分を占め、クラス毎に履修が同じ科目が多い、また科目名から内容がほぼイメージできる等の理由により、学生はシラバスを十分に確認することなく、授業に参加する傾向が強いと考えられる。授業に対する取り組みや出席状況は、概して良好であり評価は高い。これに対し、授業外での学習においては、レポートや課題が課されない科目で低い傾向が読み取れる。今後、資格必須科目、選択科目ともに、授業への能動的かつ積極的な参加と学習意欲の更なる向上を図る事を目指し、将来設計を含めた情報の提供を促進し、評価が向上するよう努力する。また基礎科目群、資格関連の基礎科目の授業関連の評価がやや低い傾向にあることから、進度別クラスにおける指導体制の充実を目指したい。今後も、学生の学習意欲の向上につながる指導方法、環境整備などを学科内の教員個人に加え、カリキュラムグループ等を活用して検討していく。

1. 概評

設問共に概ね、前年度と同等な評価がなされているが、各項目若干点数が高くなっている。

資格取得の必修科目が多く、出欠席の取り方も厳しいので、授業の出席状況の評価は12項目中、最高点であり、例年通りである。しかし、科目内容が決められているため、シラバスの確認をせずに授業を受講している学生が多い。授業内での取り組みが良好に対して授業外での学習が例年、低かったが、昨年度から学生の意識向上、教員の支援によりさらに高い評価となっている。年々、学生個々の基礎的な能力の差が大きくなって来ていると言われているが、今年度から導入した化学の能力別クラスの開設で良好な結果が表われているので、他の科目でも個々の能力に合わせたきめ細かい指導ができるような授業の運営方法や時間割の設定についても検討することが重要であると考え。

学習環境は、良好と言えるが、参考図書等については、授業外での学習を促すためにも、より一層の充実が望まれる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.7	0	0	0	10	70	17	[学生] 例年、シラバスの確認の評価は12設問中、一番低く、授業内容をシラバス上で確認せずに授業を受けている学生が多いと思われる。資格取得必修科目が多いため、出席状況は、例年、高率である。授業外での学習の評価が過去、低値であったが、昨年度から評価が上って来ている。そのことからさらに学生自らが自主的に学習意識を持つ事ができるよう支援の方法を教員各自が検討する必要があると考える。
2	4.1	0	0	0	1	27	69	
3	4.5	0	0	0	0	2	95	
4	3.9	0	0	1	11	36	49	
5	3.9	0	0	0	3	56	38	[授業[内容]] シラバスの確認や活用があまりなされていないため、シラバスに沿った内容であるかについては、低い評価となっている。内容の理解度については、学年差や授業形態によっても違う。高い専門的な知識や技術を身につけて、全員、国試合格を目指すような学生を養成するためには、1年生の基礎力向上のための能力別クラス編成や授業内容の検討をする必要であると考え。
6	3.9	0	1	1	1	49	45	
7	3.9	0	1	0	16	33	47	[授業[教え方等]] 例年通りの評価が見られる。教え方の評価には、受講数と教室の広さ、授業で使用するAV教材などの使い方などにより評価が変わる。授業内容をより興味を持たせ、理解を深めさせ、授業内外で学習時間を増やすような教え方を教員や学科検討していくことが必要であると考え。
8	4.0	0	1	2	12	24	58	
9	4.0	0	0	1	3	45	48	
10	4.0	0	0	1	0	49	47	
11	4.1	0	0	0	12	19	66	[環境・設備等] 学習環境については、例年と同等の評価であるが、今年度、3年生の在籍数が非常に多いため、学習環境の評価が学年によって違う。特に実験実習の科目が多いため、受講生数に見合う実験実習室の環境づくりが重要である。 授業及び授業以外の学習・卒研ゼミなどでも専門書を利用する機会が多いので、専門領域によっては、不十分な点も多いと感じている。今後も専門書等の充実を図るため、教員からの図書館にさらに図書を推薦していただけるようにはたらきかけていきたい
12	3.8	0	0	0	9	57	31	

3. 今後の方針

栄養士養成施設であるので、決められているカリキュラムを大幅に逸脱することはできないので、学生自身もシラバスを確認することなく、授業に臨んでいることは常に予想されている評価となる。授業に対する取り組み方として出席率が高いことは例年、評価されている。平成 22 年度まで授業内と授業外での学習の取組方の評価にかなりの差異があったが、年々、わずかずつであるが、授業外での学習への評価が高くなってきた。決められているカリキュラムの中でも学生の意識の向上や教職員の支援の効果であると思われる。また、基礎力の低下を補うために入学時に1年生へ基礎力テストを今年度から開始し、その結果に基づいて、化学を能力別クラスで授業運営を行っている。前期が終了した時点では、能力別にすることにより、授業内容の理解が深まった学生も多くみられるが、シラバスをみることなく、大学の授業運営に戸惑う1年生も見受けられる。後期になれば大学生活に慣れてきて、自主的に学習を行い、基礎力の強化にも繋がってくると考える。入学当時から専門へのモチベーションの持続、国家試験に全員合格できるような能力を身につけられるように今後も学科として支援方法も検討していく。環境整備などについても関係部署と連絡を取り合いながら、より良い学習環境を整備していきたい。図書館で幅広く学生達の図書希望等が把握できるような機会があれば良いのではないかとと思われる。

1. 概評

すべての項目において、4以上の評価が圧倒的に多い。授業外の学習もよくしているという結果が出ているし、授業内容もよく理解しているという結果となった。教室の大きさについても、教室が小さすぎる、などの場合には、教室の移動などを実施してもらうことで、高い評価を得られたと考えられる。唯一、4以上という回答よりも3.5~4という回答が上回った項目は、図書館における参考書の充実である。次第に改善されつつあるが、今後も一層、推薦図書などにより図書の充実を図っていく方針である。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	5	47	52	<p>[学生]</p> <p>どの項目も、4以上という評価が半数以上を占めており、特に出席については、ほぼ全員がよく出席したと回答している。欠席が続く学生への対応や、無理のない履修計画などの指導を通じて、今後も学生がきちんと出席できるよう、指導に努めたい。また、シラバス確認について、シラバスをよく確認していない科目は、1年生必修の基礎ゼミ、2年必修の文化研究ゼミ、編入するのに必須の科目などの必修科目がほとんどであった。必修科目についても、シラバスをよく確認するよう、指導をおこなっていききたい。</p> <p>短大では、数年にわたり自主的に学習させる工夫を、それぞれの授業で行うことに努めており、その結果が項目4の評価に表れたと考えられる。</p>
2	4.1	0	0	0	2	38	64	
3	4.4	0	0	0	0	3	101	
4	4.1	0	0	0	3	31	70	
5	4.1	0	0	0	1	38	65	<p>[授業[内容]]</p> <p>どちらの項目も4以上評価の授業が最も多くとくに問題はない。今後も継続して、シラバスと授業内容との合致、変更があった場合には速やかに連絡を行っていく。</p>
6	4.1	0	0	0	4	31	69	
7	4.1	0	0	0	5	26	73	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>教え方についても、全部の項目で4以上の評価を得ている授業がほとんどであった。今後の教員一人ひとりが良い授業をするようにしていくことで、この評価を維持できるかと思われる。</p> <p>項目9について、1科目が1.3という低い評価を受けているが、担当教員がこの結果を受けて、改善を図るようにしたい。</p>
8	4.2	0	0	0	2	26	76	
9	4.0	1	0	0	6	37	60	
10	4.1	0	0	1	4	34	65	
11	4.1	0	0	0	3	25	76	<p>[環境・設備等]</p> <p>教室についても特に問題がない。多くの教室が視聴覚化したこともその理由の一つと考えられる。また、人数が多数の場合には、教室の変更が可能かどうか、聞いて下さるように呼び掛けも行っている。推薦図書については、昨年度よりは改善されたものの、様々な分野に興味を持つ短大生のニーズにこたえるには、まだまだ図書の充実が必要だと思われる。</p>
12	3.8	0	0	1	7	64	32	

3. 今後の方針

ほぼすべての項目について、4以上という評価となっているので、これまで同様に、この結果を今後も継続できるように、教員一人一人が工夫し、FDアンケートの自由記述欄なども大いに利用しながら、更に授業を改善できるようにこれまでと同じように努めていくことを方針とする。

1. 概評

前回の平成23年度後期と比べると、評価項目12のうち、0.2下回った項目が1つ、0.1下回った項目が7つ、変わらないものが4つあります。前回よりよい評価を受けた項目は皆無であった。

つぎに全学科平均と比較すると、項目「授業はシラバスに沿って行われたか」のみが辛うじて全学平均を0.1上回ったが、他の項目は0.1~0.3下回っている(0.1下回る項目:1,4,6,7,9,10,12/ 0.2下回る項目:2,3,8/ 0.3下回る項目:11)。

しかし、数値的に見るならば前回の本センターの平均や全学平均を下回る項目は多いものの、全般的には評価はほぼ横這いと言っていい。問いグループの[学生]、[授業(内容)]、[授業(教え方)]、[環境・設備等]についても、項目11を除いて前回と目立って異なる変化はない。項目11に関しては、「評価と対策」で述べる。

無論、全般的、相対的に見るならば、評価は決して高いとは言えず、一般教養科目の多様性ゆえ一朝一夕にはいかないが、分析と反省をとおしてじっくり改善を図っていかねばならない。まずは、学生の学習意欲を刺激できるように、履修の見取り図とも言える「知の羅針盤」を学生の間浸透させていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.8	0	0	0	5	109	65	[学生] この問いグループの平均は、前回は0.1強、下回っている。相変わらず、出席を問う項目は12項目中の最高値である。学生は良好な出席を維持しているため、次には学習の質の充実を目指して精進して欲しい。 本年度から一般教養科目は旧来の人文科学、社会科学、自然科学という科目分類から、より分かりやすい新分類に切り替え、その分類の視覚化として、また履修の見取り図として「知の羅針盤」というイメージ図を作成した。学習の質の充実のためにも、この「知の羅針盤」を学生間に浸透させ、学習意欲を刺激していきたい。
2	3.9	0	0	0	9	91	79	
3	4.3	0	0	0	0	1	178	
4	3.9	0	0	5	19	70	85	
5	4.1	0	0	0	4	66	109	[授業[内容]] この問いグループの2項目は平均4という数値を維持しており、また平均値の数値分布(1≦~4≦)を見ても、2.5≦~<3は項目6に1つあるのみで、概ね良好と言ってよいと考える。
6	3.9	0	0	1	11	80	87	
7	4.0	0	0	1	28	54	96	
8	4.0	0	0	0	17	58	104	[授業[教え方等]] この問いグループの今回のどの項目も、前回と比べても、全学科と比べても若干低い評価であったが、項目9を除いて4という数値を維持しており、また平均値の数値分布(1≦~4≦)を見ても、2.5≦~<3である項目は、ごく少数となっており、概ね良好と言ってよいと考える。 授業公開などの機会を利用して、更なる講義内容、講義方法の充実を図っていきたい。
9	3.9	0	0	1	34	68	76	
10	4.0	0	0	2	10	75	92	
11	3.9	0	0	1	22	64	92	[環境・設備等] 学習環境を問う項目11は、全学平均を大きく-0.3も下回っているが、キャリア科目をはじめとして一般教養科目は、総じて受講生数が多いことが、理由として考えられる。本学の教室の広さなどを考えると、この数値はやむを得ないであろうか。 参考図書の充実も引き続き課題であるが、学習図書、推薦図書の積極的な申し込みに各教員にお願いしていきたい。
12	3.7	0	0	0	45	120	14	

3. 今後の方針

カリキュラムポリシーに従って、目下カリキュラム編成の見直しを行っており、拙速にならないように、しかし着実に、科目の新規開設と科目の廃止を行っていきたい。

「評価と対策」にも記したように、一般教養科目の新分類であるとともに、本学一般教養科目の言わば履修及び知の見取り図である「知の羅針盤」を学生の間に浸透させ、履修計画の際に大いに利用してもらいたいと考えている。そのためには、カラー印刷で学生マニュアルへの掲載を切に願っている。

1. 概評

前期開設のうち 241 科目でアンケートをおこなった。昨年度後期から評価をおとした項目はなく、3 項目でそれぞれ+1、合計+3 の評価をえた。昨年度前期とくらべると合計+1。数値はいわゆる高どまりで安定している。No.12 の 3 点台が不満である。図書館の学習用図書を充実させ、PR することで、利用率の向上につとめたい。シラバス確認(No.1)はここ数年めだった変化はないものの、既習の英語科目はともかく、初習の外国語科目はいたしかたない面があるとはいえ、後期さらには次年度にむけて、かならず目をとすよう、各教員をとおして学生たちによびかけていく。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までの比較で記述する。)

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	0	5	41	114	54	[学生] No.3とNo.4の評価が他学科の教科目とくらべて高いのは、予習、復習、演習が欠かせない、外国語科目という性質から当然であろう。したがって、あらかじめゲタをはかせてもらっているようなものであり、より高得点をめざす必要を感じる。No.2の評価はクラス人数と反比例する傾向にあり、語学教育の充実のため、少人数化をさらにすすめたい。当面はすべての科目で20人台前半をめざす。
2	4.0	0	0	0	4	72	138	
3	4.4	0	0	0	1	20	193	
4	4.0	0	0	2	6	81	125	
5	4.0	0	0	0	8	98	108	[授業[内容]] No.6は最高4.6、最低2.9であった。平均よりいじらしく低い科目については、来期もみすえ、なんらかの策をとる計画である。
6	3.9	0	0	2	11	94	107	
7	4.0	0	0	5	20	56	133	[授業[教え方等]] No.10が+1。そのほかは変化なし。この部門の各項目は評価がたがいに連動している。ひとつだけ突出してたかい、ひくいという評価はみられない。全教室に視聴覚設備がととのったこともあり、今後さらに教授法の改善が必要とされるところである。
8	4.1	0	0	1	13	50	150	
9	3.9	0	0	4	19	83	108	
10	4.0	0	0	2	19	67	126	
11	4.2	0	0	1	3	37	173	[環境・設備等] 受講者数については[学生]欄で上述のとおり。No.12の図書館利用は、他学科もおしなべて低調のようである。講義内容と図書館が用意する学習用図書との連携をはかりたい。
12	3.7	0	0	0	45	143	26	

3. 今後の方針

評価が乱高下することなく、一定水準をたもつとはいっても、ほとんどの学生は必修単位をおさめると外国語学習をやめてしまう。教室外での自主的な学習意欲をひきだすためにも、外部の検定試験の評価を単位化しようと計画している。ボストン、上海、ソウルなどに姉妹校がある利をいかし、国際交流センターとも協力して、学生たちに外国語学習を奨励する。

全教室に配備されたハード(視聴覚設備)を活用するための、ソフト(CD、DVD などの各種語学教材)を充実させていく。

1. 概評

毎回、枕詞の様になるが、本アンケートの12設問は、学生の状況、教師の指導など異なる四つのカテゴリーで構成されている。従って、それを一括して単純平均値(総合平均値)を算出することには問題もあるが、時間的変化の傾向を見る手段として、数値を出している。その結果、2009年度前期:4.1、後期:4.2弱、2010年度前期:4.1、後期:4.1弱、2011年度前期:4.3弱、後期:4.25と、ほぼ4.2前後で推移し、多少の上昇傾向が認められた。今期(2012年度前期)は4.37を示し、僅かながら上向きとなっており、「概ね満足できる」結果と言える。担当教員は、専任の1名減、非常勤の1名交代で大きな変化がない中での向上は、改善の成果とも言えるだろう。2~3名の教員評価に低い数値が集中するが、その項目数や程度は昨年度に比べて改善されている。この報告を含め、指摘をしてきた成果と考えられる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.2	0	0	0	0	5	23	[学生] 「シラバスの確認」と「授業外での学習」、次いで「積極的な授業参加」が4.5に達していないが、いずれも昨年度よりも0.1上回っていて、改善されていると言える。この3項目全体で3.5未満が僅かに1名であることも評価できる。
2	4.4	0	0	0	0	1	27	「出席状況」に対する評価は本学の学生指導の重点でもあり、恪勤賞・皆勤賞などもあって学生の意識が高いため、今回もすべてで4以上となっている。理由の如何に拘らず、授業への出席率が高いことは良いことであり、1限の遅刻も減少傾向にあり評価できる。
3	4.7	0	0	0	0	0	28	シラバスの充実と活用は、「項目1」と「項目5」の関連性もあり、「事前学習の指示」など、より分かりやすいシラバスへの工夫努力が奏功しているとみられる。
4	4.3	0	0	0	1	3	24	学生の自己評価は、妥当なものを受け止められる。
5	4.4	0	0	0	0	1	27	[授業[内容]] 「授業内容の理解」は授業の基礎的な必要条件である。3.5 ≤, <4 が「3」であることをどのように解釈するかには議論があるが、減少させる努力は必要になる。しかし、昨年度に比べれば向上を認めることができ、一応の満足はしている結果と判断している。学生の実態に応じ、もう一段の向上が図れるように、引き続き改善に努めたい。
6	4.3	0	0	0	0	3	25	
7	4.4	0	0	0	1	2	25	[授業[教え方等]] 「説明の明快さ(項目7)」「話法・話術(項目8)」「メディアの活用(項目9)」「資料と教材(項目10)」は、教師の指導技術、指導能力に関わる部分の評価である。この4項目の平均値を算出すると、昨年度前期に比べて0.1、後期に比べては0.2の上昇が認められる。改善の成果は、僅かとは言うもののみられており、更に続行していきたい。
8	4.5	0	0	0	1	0	27	授業においては如何にICTを駆使したとしても、大きな、良く通る声で、明瞭に、分かりやすく「話すこと」は不可欠のことである。ICTを活用しつつも過度に依存しないで、人間教師の力を発揮することに、更に意を用いたい。関連して、教師を目指す学生への教育として、メディアを多用することと活用することの違いを授業の中で示し、活動型・参加型の授業づくりにも努めたい。
9	4.3	0	0	0	0	2	26	
10	4.5	0	0	0	0	2	26	
11	4.3	0	0	0	1	3	24	[環境・設備等] 「教室環境」と「図書館の充実」は、毎回のアンケートで、ほぼ変わらず低い数値を示している。冷房は、節電に配慮しつつ使用しているが、送風口によって体感温度にかなり異なりが生じることと、低すぎる温度設定で機能しないことがあり、指導が必要。
12	4.1	0	0	0	0	6	22	図書館は充実が図られているが、学生のニーズと乖離が見られるのかも知れない。

3. 今後の方針

「1. 概評」に記した通り、教職課程科目に関しては、「概ね良好」が継続されており、学生の評価の妥当性も認められ、信頼度の高い一つのデータとして受け止めたい。より数値の高さだけを求めることなく、質の高い授業を提供し、「善い教師」を育てることに努力をしたい。

教職課程履修者は、年度や学科による変動はあるが、各学年とも「ほぼ 100 名」の水準にあり、教師への強い志望を抱く学生も多い。教員養成制度の近い将来における高度化(中教審答申)も視野に、教職課程での実働専任教員3名を確保し、本務校と変わらない指導を担ってくださっている非常勤講師と協働して、学生の目的達成に一層の支援・指導を行いたい。

「教職課程授業公開ウイーク」を設けての授業公開は、非常勤の2名にも参加を得、参観者数は多くはなかったものの収穫があった。分析・検証しつつ継続したい。